

学びの系統性



階段：系統性

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としています。小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編（以下、学習指導要領解説）では、小・中学校を通じて、指導事項と言語活動例において、重点を置く指導内容を明確にし、その系統性が示されています。下の表Ⅰはその一部を示したものです。指導事項の系統性を確認する際は、学習指導要領解説pp.196-207の「教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表（小・中学校国語科）」を御参照ください。

表Ⅰ〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと(1)ア「話題の設定、情報の収集、内容の検討」の指導事項

（小）第1学年及び第2学年	（小）第3学年及び第4学年	（小）第5学年及び第6学年	（中）第1学年	（中）第2学年	（中）第3学年
ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。

学びの連続性

階段：系統性
手すり：単元デザイン
教師の働き掛け

学びの連続性とは、児童が単元で取り扱う学習内容と既習内容を関連付けながら、学びをつないでいくことです。

本研究では、学びの連続性が表れた児童の姿を「既習内容の想起」「既習内容の活用」「学びの自覚化」「次への見通し」の4つに整理しました。これらの姿が表れるように、単元デザイン及び教師の働き掛けを工夫することで、児童が学びをつなぎながら学習を進めることができ、資質・能力の確実な育成につながります。

学びの連続性が表れている児童の姿

既習内容の想起

- ・これまでの学びを思い出している

既習内容の活用

- ・これまでの学びを使っている

学びの自覚化

- ・学びを振り返り、身に付けた資質・能力に気付いている

次への見通し

- ・次にどのように生かすかを考えている

児童が学びをつなぐポイント

ポイント1 単元デザインの段階において、指導事項の系統性を踏まえた学習活動を構想する。

① 系統表を基に、単元で取り上げる指導事項と、既習の指導事項を確認する。

既習内容の想起	単元で取り上げる指導事項 (例) 第6学年 「A話すこと・聞くこと」		〔知識及び技能〕言葉の特徴や使い方にに関する事項(1) イ 話し言葉と書き言葉の違いに気付くこと。 〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと(1) ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	
	言語活動		インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする。(関連：A(2)イ)	
	〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと(1)ウ「表現、共有」の指導事項			
既習内容の活用	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年	(中) 第1学年
	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。	ウ 話す中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

これまで、話し方を工夫してきているけれど、今回は、資料を活用しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫することが大切だな。



② 具体的な言語活動と学習課題を設定する。

既習内容の活用	言語活動	将来の夢や目標をスピーチで伝える（関連：A(2)イ）
	学習課題	この単元では、自分の考えが伝わるように、資料を活用するなど表現を工夫して話す力を身に付ける学習をします。 課題は、学んだことや体験したことを振り返り、クラスの人々に向け、将来の夢や目標を伝えるスピーチを行うことです。

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力を育てる学習活動にしたい。将来の夢や目標について情報を集め、資料を活用してスピーチを行う言語活動にしよう。これまでに学習してきた話し方の工夫も生かすことができそうだ。さらに、相手の反応を踏まえながら表現を工夫する中学校での学びにもつながりそうだ。



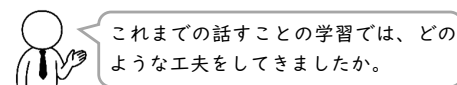
③ 振り返りの場面を設定する。

学びの自覚化	振り返りの視点（例）
	・どのような力が身に付いたか。 ・どのような工夫によってできるようになったか。 ・次の学習やほかの場面でのように生かしたいか。

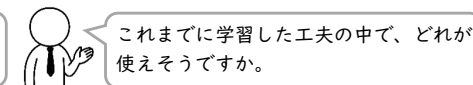
ポイント2 授業において、児童の学びをつなぐための働き掛けを行う。

教師の働き掛けとして、以下のような発問を単元の導入や終末だけでなく、言語活動を行う中でも繰り返していきます。

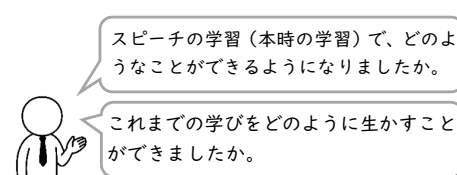
既習内容の想起 を促す発問(例)



既習内容の活用 を促す発問(例)



学びの自覚化 を促す発問(例)



次への見通し をもつことができるようにする発問(例)

